

【発行元】 東北大学 血液・免疫病学分野（東北大学病院 血液免疫科）

Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

今号の内容

1. 巻頭言
2. 日本検査血液学会報告
3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議参加報告
4. 秋保セミナーのお知らせ
5. 学術集会予定
6. 医局引越しのお知らせ
7. 業績紹介

1. 巻頭言

今年も梅雨が明けると同時に猛暑となりました。台風がやたらと多く雨もスコールのような爆発的な雨ばかりで熱帯化しつつある地球を実感しています。

さて、今回の血免ニュースは7月に主催した日本検査血液学会報告とリンダウノーベル会議出席報告、そして6号館への引っ越し予告が主たる記事です。日本検査血液学会は記事で報告させていただいているように、多数の参加者をいただき大変充実した学会となりました。リンダウノーベル会議はドイツで開かれるノーベル賞受賞者と世界の選抜された若手研究者の交流会議で当科の中村恭平が参加してまいりました。大変栄誉なことで中村だけでなく医局全体の刺激になったと思います。6号館はいよいよ竣工式が終わり9月末に5階に引っ越すこととなります。実習棟に医局が移動して5年余りでまた引っ越しとなりますが、新築の建物で南向きの快適な空間が確保できました。病棟からは遠くなりますが、気持ちをリセットし新たな出発ができると思います。是非お立ち寄りいただいて新しい医局をご覧ください。

これから後半にかけて10月の血液免疫学セミナーを皮切りに日本血液学会、日本免疫学会、アメリカ血液学会と当科の主要な行事が続き今年もあつという間に過ぎていきそうです。時間を大切に着実に業績を積んでいきたいと思っています。（張替秀郎）

2. 日本検査血液学会報告

平成26年7月20, 21日に第15回日本検査血液学会を仙台国際センターで開催いたしました。本学会は日本血液学会のサブ学会で血液検査・診療にかかわる医師・検査技師から構成される学会です。「理論と経験に基づく検査血液学」をテーマに最新のゲノム医療から基本である形態学、さらに血液疾患の教育講演と幅広く血液検査学にかかわる企画をそろえました。特別講演には柴田昭先生においでいただき、「研究のプロトタイプ—メンデルに学ぶ—」と題したタイトルでお話いただきました。遺伝学の開祖であるメンデルのお話は今学会のコンセプトにまさに合致したお話であり、なにより研究のあるべき姿を明確にそして厳しくお示しいただいたご講演に会員一同から盛大な拍手が送られました。

おかげさまで学会参加者は1700人を超え、東京以外の開催では最高の参加者数で大成功の学会となりました。参加した学会役員からもプログラム、学会運営ともにお褒めのお言葉をいただきました。ご寄付、ご参加いただいたOBの先生方のご支援に改めて御礼申し上げます。

9月には規模が小さくなりますが日本鉄バイオサイエンス学会を開催予定です。この学会も盛会に終わるべく頑張ってみりたいと思います。



3. 第64回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議参加報告

中村 恭平

このたび、日本学術振興会の推薦をいただき、平成24年6月末より1週間、第64回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議(生理学・医学部門)に参加いたしました。「リンダウ」ですが、ドイツのバイエルン州ミュンヘンから電車で2時間ほど田園地帯を南下し、スイス、オーストリアとの国境沿いのボーデン湖に面した美しい保養地です(写真1)。この地で毎年、約30名のノーベル賞受賞者と、各国から500名の若手研究者を招き、受賞者講演や交流イベントを行うのが本会議です。物理→化学→医学→3分野合同でローテーションするため、生理学・医学部門は4年に1度の機会で行われます。



(写真1)

会議の冒頭でドイツの文部科学大臣が「今ブラジルでワールドカップが行われているが、この会議は科学のワールドカップだ」と言ったように、90か国に及ぶ様々な研究背景の若手研究者が参加しました。サッカーと同様に日本からは11名が参加し、半分は海外組(留学中)の研究者であり、他の日本人参加者の豊富な国際経験や意識の高さに大きな刺激を受けました。会議は連日朝から8名のノーベル賞受賞者が各30分の講演を行い、午後に興味のある受賞者を選んで、受賞者が気軽に若手研究者の質問に応じる時間があり、その後毎晩、パーティーや歓迎イベントで、専ら肉とイモを素材とするドイツ料理とビールをいただいて一日が終わります。

国際学会と異なるのは、若手研究者は基本的に発表の機会がないので、気持ち的にはリラックスして臨めます。そしてこの会議の最大の特徴は、受賞者と参加者、そして参加者同士の距離の近さにあります。受賞者は、時に冗談を交えてどんな質問にも答えてくれましたし、写真撮影も快く引き受けていました(写真2 Beutler先生、2011年自然免疫で受賞)。参加者同士は、講演やイベントで隣に座れば、「Hi, I'm Kyohei. What are you studying?」と挨拶し、研究内容や研究背景の違い、今後の目標などについて話しました。特に仲良くなったタイでコレラの研究をしているPingさん(写真3: 民族衣装持参のパーティーにて)は、「公衆衛生の向上のため、自分が頑張りたい」という強い使命感を持っており、印象的でした。



(写真2)

講演の内容自体は受賞の背景となった研究内容の紹介、現在進行しているプロジェクトの紹介、研究者としての半生など多岐に富み、まったく飽きさせない内容でした。がん遺伝子v-Src、HIVウイルス、シングルイオンチャネル、制限酵素や遺伝子組み換え技術、リボソームの結晶構造解析など自然科学のマイルストーンとなる発見を聴講してはただただ圧倒されるばかりでしたが、講演や質疑応答の要所要所で若手研究者への温かいメッセージが込められており、それが何よりも心に響きました。特に多くの受賞者が共通して口にするのは「curiosity-drivenなサイエンスを貫きなさい」「よきメンターに恵まれること、そして自分自身がよきメンターになりなさい」「Scienceを楽しみなさい」というメッセージでした。研究に付きまとう他の研究者との競争やグラント、論文のインパクトファクターなどの雑音とは離れた、偉大な研究者たちの科学に対する崇高な精神にふれることができたのは貴重な機会でした。

自分自身、この会議の参加に向けた準備の段階においても、これまでと今後の研究を整理する良い機会になりました。そして実際に参加することで自分がいかに狭い視野であったか、今後どうすべきかなど、帰りのミュンヘン空港のビアガーデンで3時間ほど自身に問いました(その後の出国審査で「お前、パスポートよりもずいぶん顔が赤いぞ。どの銘柄を何杯飲んだ?」と問いただされましたが)。最後になりましたが、この貴重な機会に推薦してくださいました張替教授に感謝申し上げます。



(写真3)

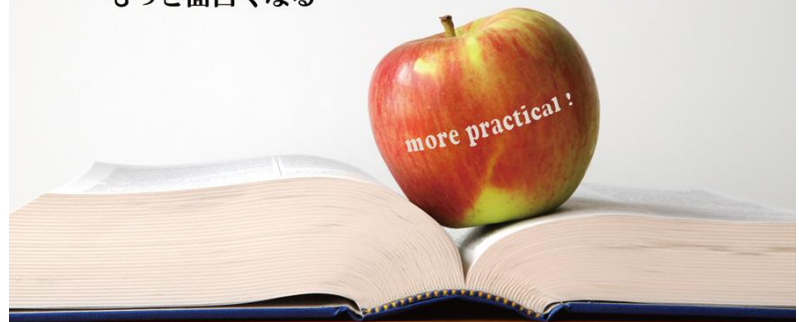
4. 秋保セミナー

来たる10月25日(土)ー26日(日)に
秋保ホテルニュー水戸屋にて血液免疫病セミナーを開催します。

今年も血液・免疫疾患の
診療に実践的に役立つ
ような内容を予定してお
ります。

夜には恒例の宴会もあり
血液免疫病学分野のさ
らなる魅力を伝えること
ができればと思います。
御多忙とは存じますが、
関連病院の先生方にも
多数参加して頂ければと
思います。

ちょっと知れば、
もっと面白くなる



血液免疫病学セミナー

2014年10月25日(土)26日(日)

会場：ホテルニュー水戸屋

参加費(宿泊代込み)：2000円

主催：東北血液免疫病研究会

共催：公益財団法人一迫記念READ血液アカデミー

お問い合わせ：東北大学大学院医学系研究科 血液免疫病学分野 藤井博司

Tel: 022-717-7165 URL: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp>

hfuji@med.tohoku.ac.jp

5. 学術集会予定

「日本鉄バイオサイエンス学会を開催します」

平成26年9月6日(土)～7日(日)に、第38回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会在仙台国際センターで開催されます。本学会は1977年に鉄代謝研究会として発足して以来、毎年開催されている歴史ある学会であり、仙台での開催は今回が初めてになります。本会は、化学、植物、動物、ヒトと種を越えて鉄に関わる研究に携わっている研究者が集い、鉄に関する最新の知識、情報、話題について討論する学会であります。

今回の学会では、「鉄と腫瘍」という臨床的なテーマのシンポジウムと「ミトコンドリアと鉄」という基礎的なテーマのシンポジウムを企画しております。さらに石川県立大学・西澤直子先生の学士院賞受賞記念講演、東北大学生物化学分野・五十嵐和彦先生の特別講演を開催するとともに、最先端の鉄研究に関する一般演題も多数ご応募頂きました。さらに今回の学会では、広く一般の方も共に参加できる行事として、9月7日(日)に市民公開講座を合同で行うことを企画いたしました。「貧血～予防と治療のポイント～」のテーマで、医師・栄養士・薬剤師より鉄と貧血についての講演を予定しております。鉄の代謝に関しては、医学生物学を含む幅広い領域で注目を集めております。本会の事務局として、盛会に終われるよう微力ながらも尽力してまいります。



第38回 in MIYAGI

日本鉄 バイオサイエンス学会 学術集会

The 38th Annual Scientific Meeting of
the Japanese BioIron Society

開催日
2014
9/6土・7日

会場
仙台国際センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

会長 張替 秀郎
東北大学大学院医学系研究科
血液・免疫病学分野 教授

学会事務局 東北大学大学院医学系研究科
血液・免疫病学分野 担当: 藤原 亨
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL: 022-717-7165 FAX: 022-717-7497

運営事務局 株式会社コンベンションリンクージ LINKAGE東北内
〒980-6020 仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル20階
TEL: 022-722-1657 FAX: 022-722-1658
E-mail: jbis38@c-linkage.co.jp

<http://jbis.sub.jp/>

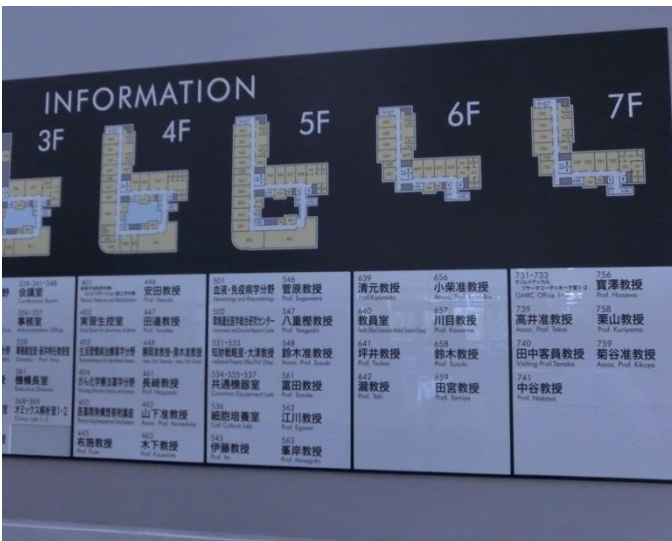
6. 医局引越しのお知らせ

この度、医学部6号館が完成しました。2014年秋に、血液・免疫科の医局は医学部6号館の5階に引っ越します。医学部6号館は星陵キャンパス内の南西側の一画となりますので、よろしくお願ひします。

右上写真:医学部6号館外観

左下写真:医学部6号館1階 案内図

右下写真:医学部6号館5階 血液・免疫科入口



7. 業績紹介

Onishi Y, Sugimura K, Ohba R, Imadome K, Shimokawa H, Harigae H.

Bone Marrow Transplant. 2014 Jun 23. doi: 10.1038/bmt.2014.129.

Resolution of chronic active EBV infection and coexisting pulmonary arterial hypertension after cord blood transplantation.

Kamata M, Okitsu Y, Fujiwara T, Kanehira M, Nakajima S, Takahashi T, Inoue A, Fukuhara N, Onishi Y, Ishizawa K, Shimizu R, Yamamoto M, Harigae H.

GATA2 regulates differentiation of bone marrow-derived mesenchymal stem cells. Haematologica in press